

同○月十七日ノ朝ヨリ、朝鮮人江御扶持野菜并ニ酒肴等下サル、大河内金兵衛奉ル、

目錄是一日ノ下
行也○中略

一 苜 二百籠

〔延喜式三十九
内膳〕耕種園圃

營萬苜一段、種子三升、苗一千五百把、總單功卅九人半、耕地二遍、把犁一人、馭牛一人、牛一頭、料理平
和二人、畦上作二人、糞百卅二擔、運功廿二人、下子半人、採苗功二人、殖功六人、刈芸一遍三人、

〔農業全書四〕萬苜

ちさ種々あり、葉の丸きあり、長きあり、長くとがりたるあり、綠色なるあり、うす黒きあり、紫もあ
り、中にて葉丸くひろく、たうをそく立、久しくさかへ、和らかにして味甘く、五六月まで葉のさか
んなるあり、是を求めてうゆべし、是は六月にたねを取をきて、八月早く蒔べし、肥地をこしらへ
置、苗さかへたる時、畦作りし、よきほどにがんぎを切、六七寸に一本づゝうゆべし、糞水を根のわ
きよりそゝぎ、泔水小便を二三日に一度づゝ、少あて朝そゝぎたるは、よくさかへやはらかにし
て、いか程かぎとりても盡る事なし、苗ふとり次第、十月霜月正二月にかけうゆべし、されども年
内うへて、細根よく出あり付たるは、春になりてよくさかへはる物なり、春になりてうへたるは、
葉しげからず、其さかへをとるものなり、是も四季ともいたねを蒔て、苗を食し、いつもやはら
かにして、腹中をなめらかにし、色々料理に用ゆる物なり、又四月たうの立たるを折て、皮をさり水
に漬、苦みをぬかし、醋に浸し、膾のつまにし、紫蘇漬などにし、珍敷物なり、種子を取には、花咲實ら
むとする時、末を折かけて置べし、其まゝ置たるは、糞多し、蚊花を吸故に、實り少し、梅雨の時分、外
に有て、花房雨を受けて黒く朽るが故也、何れにても枯ぬ程に折懸置べし、

ハナヂサ

〔重修本草綱目啓蒙十九
柔滑〕萬苜